

年間取扱概要

1 総取扱高

平成 24 年 1 月～12 月における水産物の総取扱高は、数量 110,906t、金額 98,421,313 千円であった。前年と比較すると、数量は 2,449t 増(対前年比 2.3%)で前年を上回り、金額も、5,208,455 千円増(対前年比 5.6%)と前年を上回った。

数量及び金額は、鮮魚介類、冷凍魚介類の 2 部門で前年を上回り、加工品類は前年を下回った。

2 部類別取扱高

(1) 鮮魚介類

数量は、「さんま」は海水温高の影響で不漁となったが、「するめいか」が平年並みに回復し、「秋さけ」、「ぶり」などが潤沢に入荷したため、取扱数量 43,007t(対前年比 0.4%)と前年を上回った。

金額は、「すじこ」などの買付けに成功し、単価高で推移したため、取扱金額 36,823,305 千円(対前年比 3.5%)と前年を上回った。

平均単価は 856 円(対前年比 3.0%)と前年を上回った。

(2) 冷凍魚介類

数量は、「冷すけそうこ」、「冷たらばがに」などの加工原料の需要が増加したため、取扱数量 43,309t(対前年比 7.8%)と前年を上回った。

金額は、「冷すけそうこ」などが数量増となり単価高で推移したため、取扱金額 36,123,461 千円(対前年比 13.5%)と前年を上回った。

平均単価は 834 円(対前年比 5.2%)と前年を上回った。

(3) 加工品類

数量は、「いくら」の入荷が潤沢であったものの、「干ししゃも」、「開干ほっけ」などは原料の漁獲不振により数量減。また「塩紅さけ」などは、消費者ニーズの低迷により数量が減少したため、取扱数量 24,591 t(対前年比 3.4%)と前年を下回った。

金額は、「いくら」は数量増となり単価高で推移したため金額増となったものの、「塩紅さけ」などが数量減となり、単価安となったため、取扱金額 25,474,546 千円(対前年比 1.2%)と前年を下回った。

平均単価は 1,036 円(対前年比 2.3%)と前年を上回った。